



総論－ILLによる文献提供の変化

藤江, 雄太郎

(Citation)

平成29年度国立大学図書館協会近畿地区事業「文献入手スキルアップセミナー」

(Issue Date)

2017-12-08

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004477>



平成29年度国立大学図書館協会近畿地区事業「文献入手スキルアップセミナー」

総論—ILLによる文献提供の変化

神戸大学附属図書館 藤江雄太郎

自己紹介

大学図書館に入職以来、雑誌とILLの周辺にずっといます。

大阪大学

雑誌の契約・受入・目録

大阪大学

生命科学図書館 ILL受付（医学系）

大阪大学

理工学図書館
ILL依頼（工学系）を含む サービス全般

神戸大学

総合・国際文化学図書館
ILL依頼（人社系）を含む サービス全般

本セミナーの目的とフォーカス

開催目的

学術情報の電子化そしてオープンアクセスの拡大によって、大学図書館における文献提供の在り方が大きく変わってきている。ILL担当者がその中でどのように文献入手をすればいいのか、基本的な知識・情報を得る場の提供として。

主に取り扱う内容

電子ジャーナルおよび**オープンアクセス**の文献入手に焦点。

⇒この2点について今まで知らなかったこと・漠然としか理解していなかったことを、今日のセミナーできちんと捉えて、明日からの業務につなげていってもらえればと考えています。

本セミナーの流れ

講義

総論－ILLによる文献提供の変化

講義

電子ジャーナルとILL

講義

オープンアクセス・論文共有の時代の文献提供

休憩および情報交換

3つの講義への質疑応答 および パネルディスカッション

1) ILL担当者を取り巻く 学術情報流通の変化—概況

(前置き) 本セミナーで使用するデータ

A) 近畿地区の国公立大学図書館へのアンケート調査

本講義では以降「**アンケートA**」と呼びます。

調査期間	2017年9月26日～2017年10月20日
方法	Webアンケート方式
回答単位	NACSIS-CAT/ILLの参加組織単位 (FAID単位)
回答数	94 [国立34 / 公立8 / 私立52]

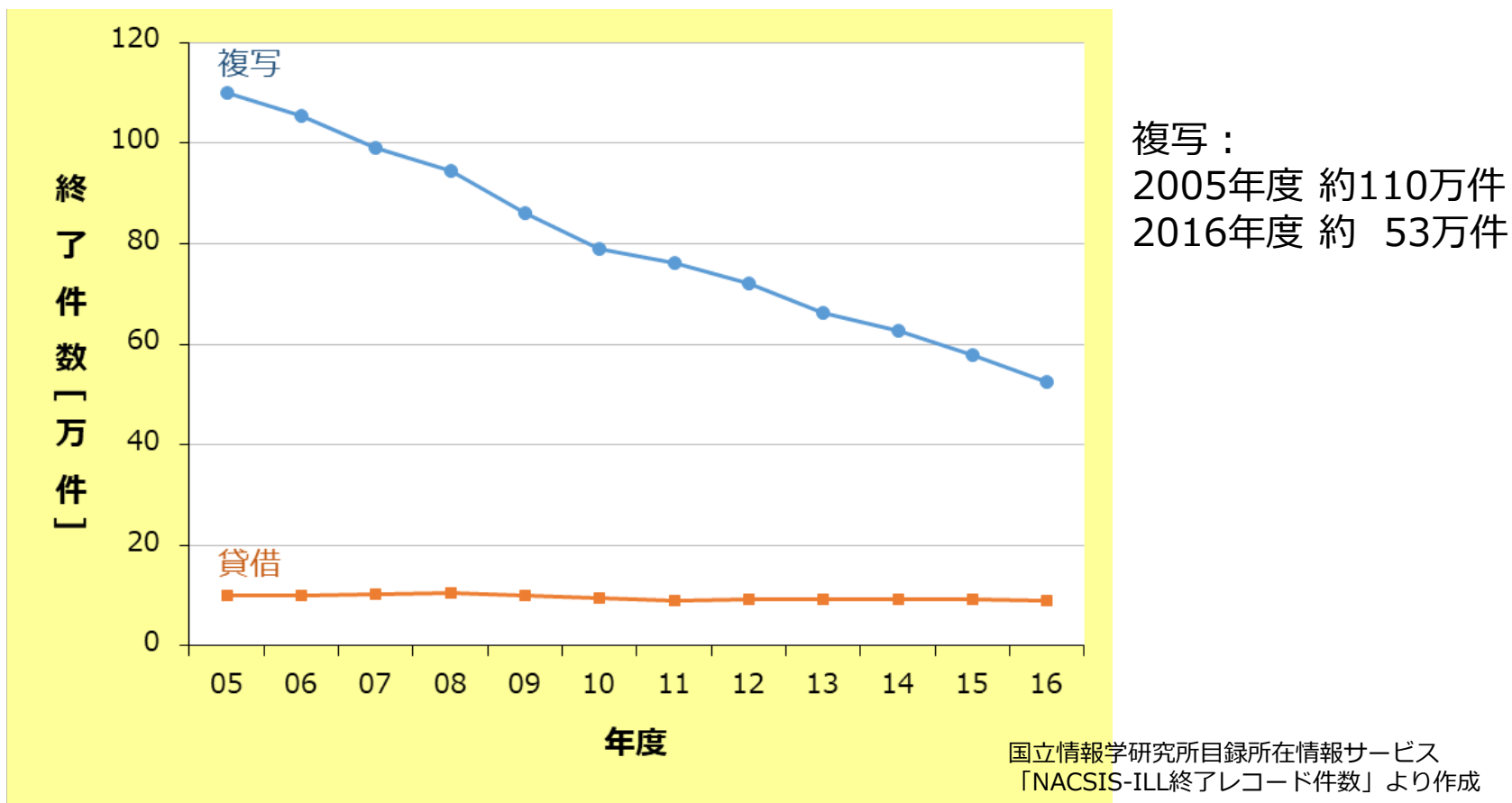
B) NIIから調査研究目的で入手したNACSIS-ILLログ

NACSIS-ILLの複写ログのうち、以下全て条件を満たすもので、本講義では以降「**複写ログB**」と呼びます。

- すでに最終状態 (確認 or キャンセル) に遷移しているもの
- ILLレコードの最終更新日付が2014年4月1日～2017年3月31日
- 依頼館・受付館のいずれかがOCLC or KERISであるものを除く
- 一度も他館とやりとりせずにCANCELしたものを除く

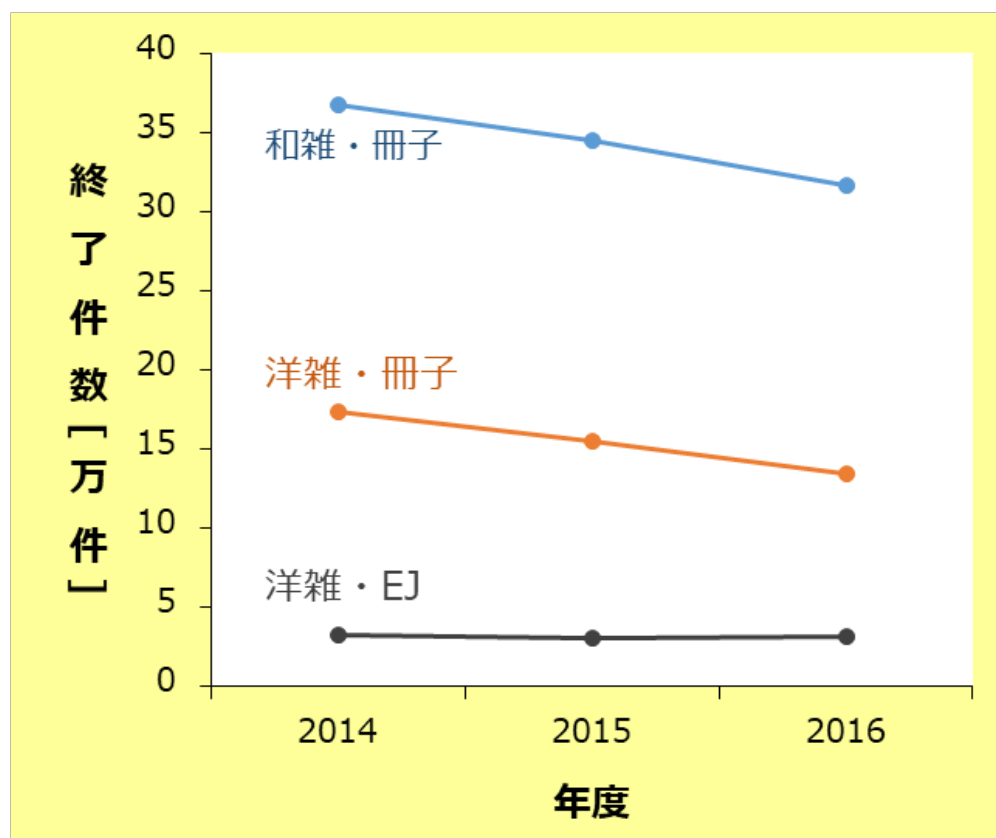
NACSIS-ILL複写依頼件数の急降下

ここ10年で複写件数は激減。ILLは消えゆくサービス？



件数減少の中で起こっていること： 電子ジャーナル文献への依頼割合の増加

ここ3年でも、冊子への複写依頼は和洋ともに激減。
洋雑誌・EJへの複写依頼3万件強で横ばい。



2014年度→2016年度の変化

和雑・冊子：約5万件減

洋雑・冊子：約4万件減

洋雑・EJ：横ばい

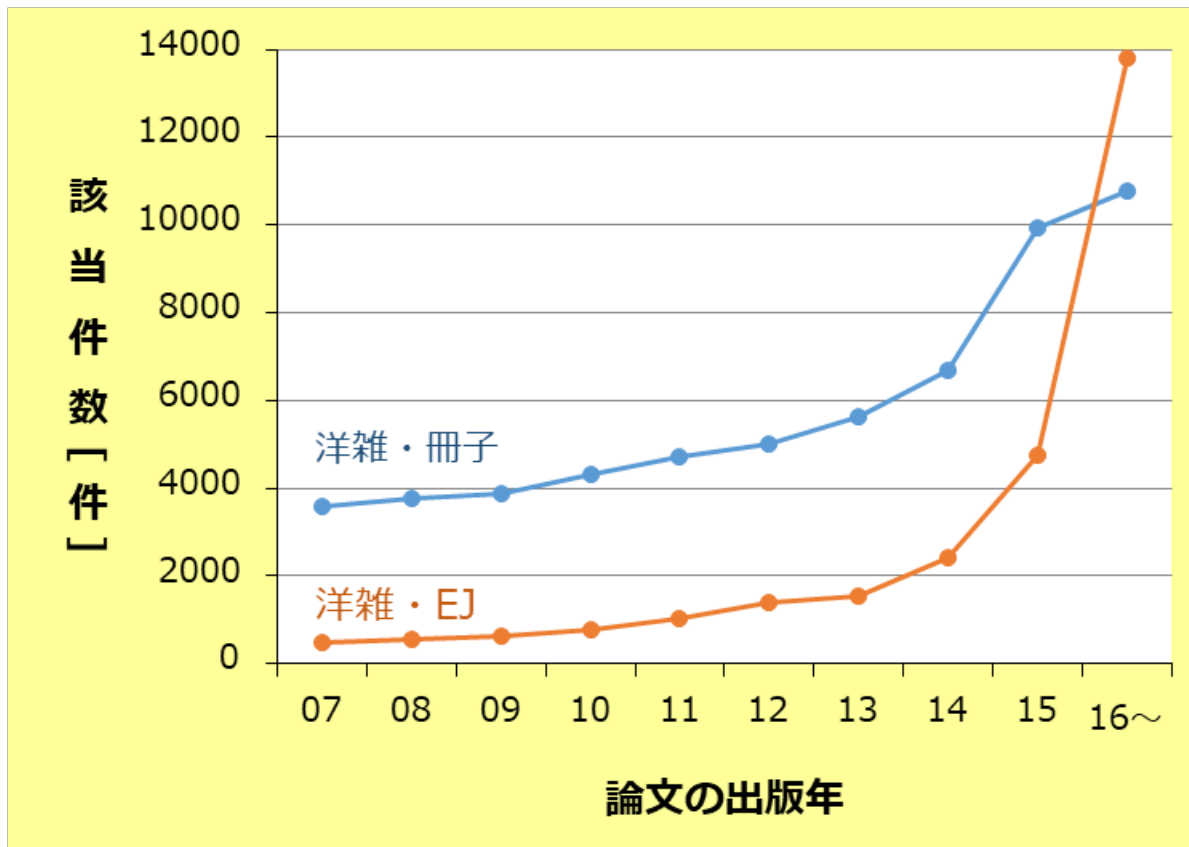
※和雑・EJは各年度1000件程度と少ないため、グラフから省略。

複写ログBより。各年度「OK」で終了のもの。
ここで「EJ」と判定したのは以下の2つ。

- ①書誌が電子ジャーナルのもの（GMD:w
かつ SMD:r）
- ②NACISIS-ILLのやり取りコメント
（SENDCMNTフィールド）中にEJへの依頼
が推定できるキーワードを含むもの

洋雑誌掲載論文の入手には EJへのILLが不可欠となっている

洋雑・直近年文献への複写依頼はEJが大きな割合を占める。
EJへのILLを駆使できるかどうかで文献入手力に大きな差が。

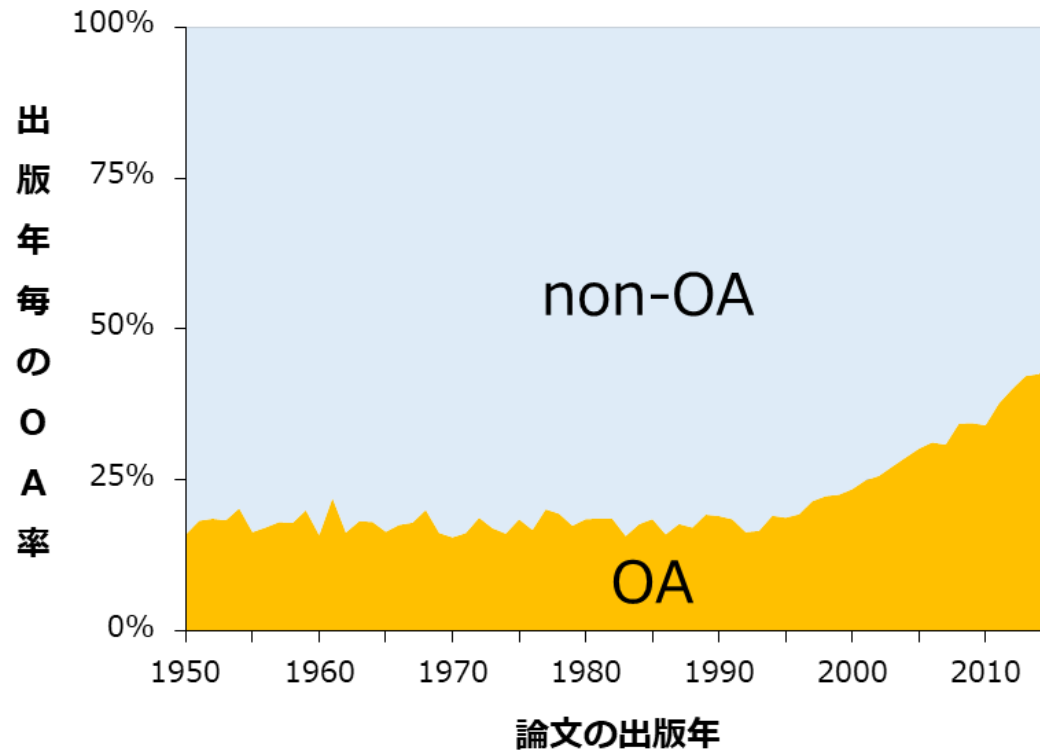


複写ログBより、2016年度「OK」
で終了のものを論文出版年別に
カウント。
論文出版年はYEARフィールドの
記載内容から読み取れる範囲で集計。

オープンアクセス論文の爆発的増加

出版年が新しくなればなるほど加速度的にOAに。

利用者やILL担当者の文献入手プロセスに大きな変化。



2017年5月時点の調査：
全出版年平均 28%がOA
2015年出版 45%がOA

Heather Piwowar et al., The State of OA:
A large-scale analysis of the prevalence
and impact of Open Access articles
2017年5月時点。
DOIを持つ雑誌論文約6,660万件のうち、
10万件をランダムに抽出したサンプル調査。

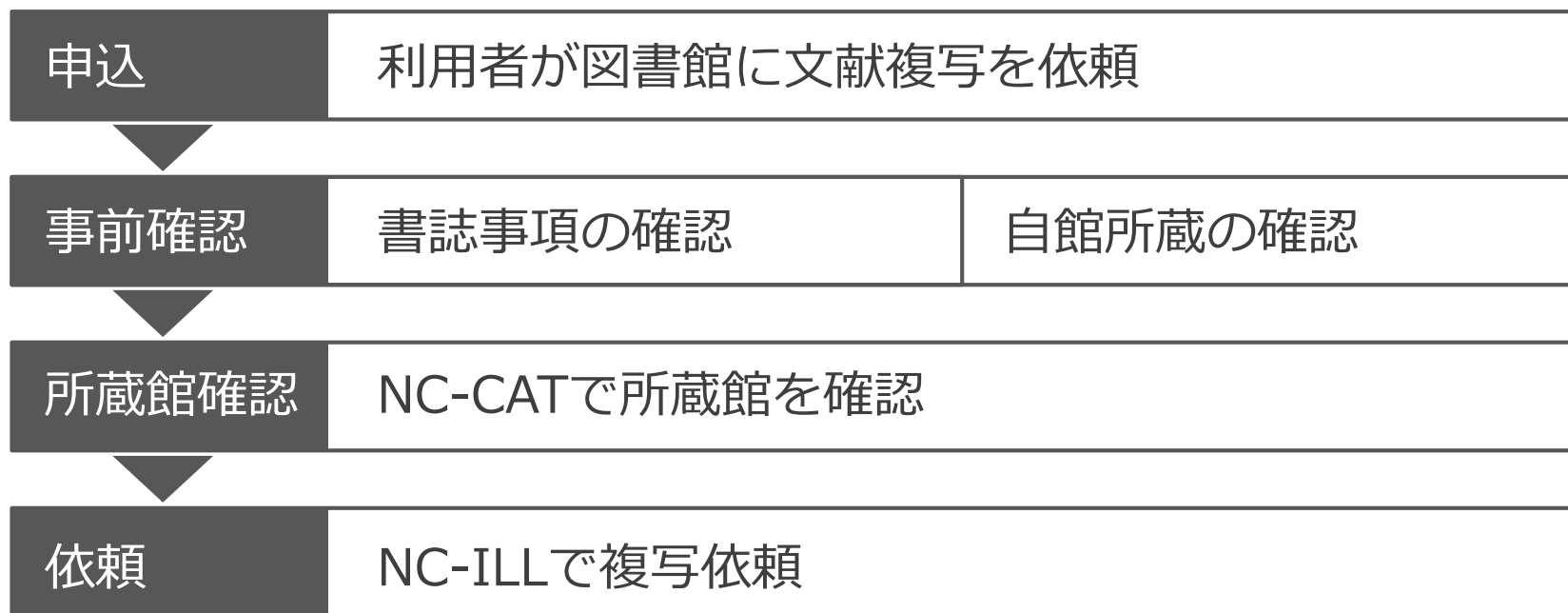
グラフはこの文献のデータを元に藤江が作成。

2) ILL複写依頼の業務フローの変化

冊子体中心の頃のILL複写依頼業務

NACSIS-ILLの範疇では、基本的な部分を抑えれば担当者の力量による文献入手の幅の差はそんなに大きくなかった。

自館・他館でどんな資料が利用できるか明確。確認もしやすい。

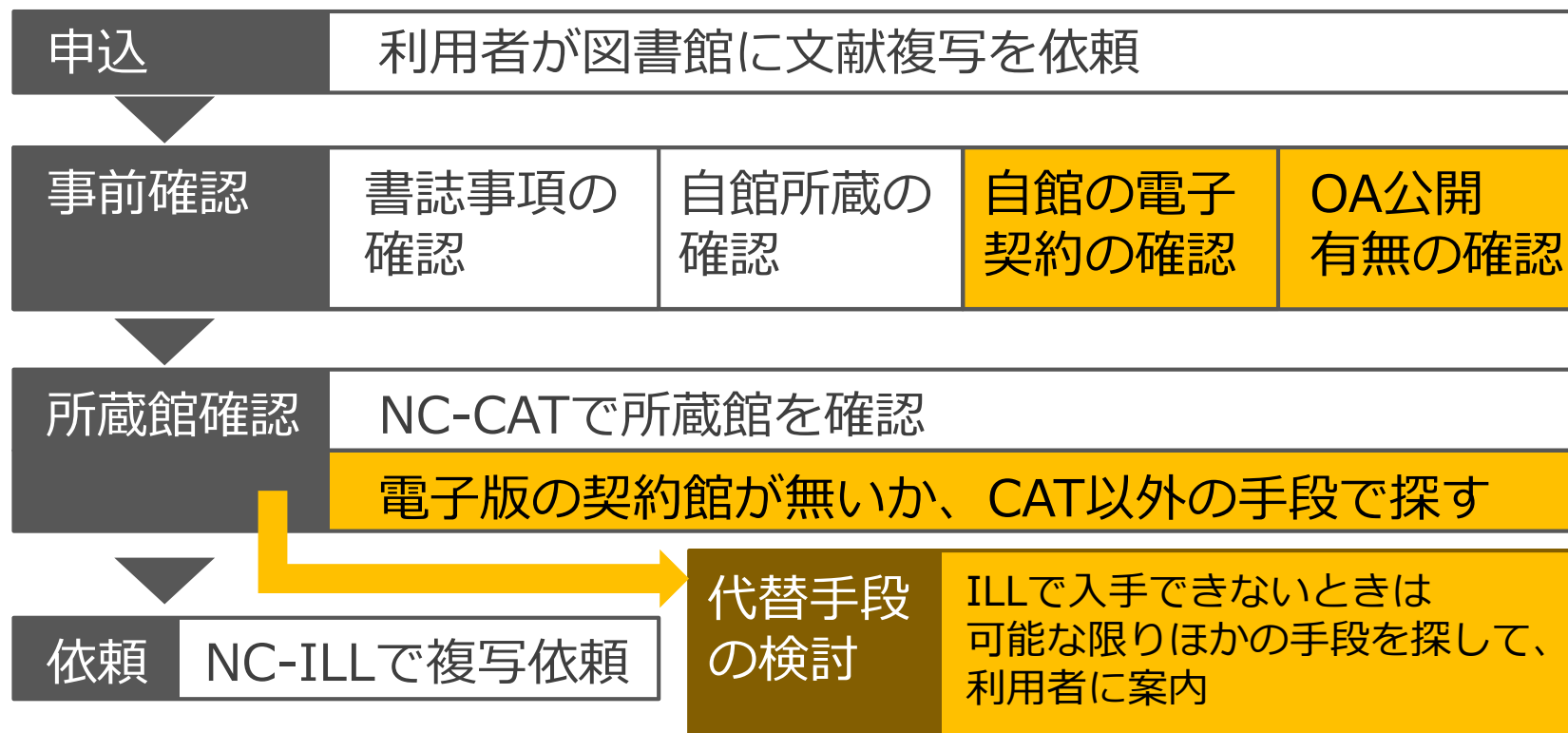


現在のILL複写依頼業務

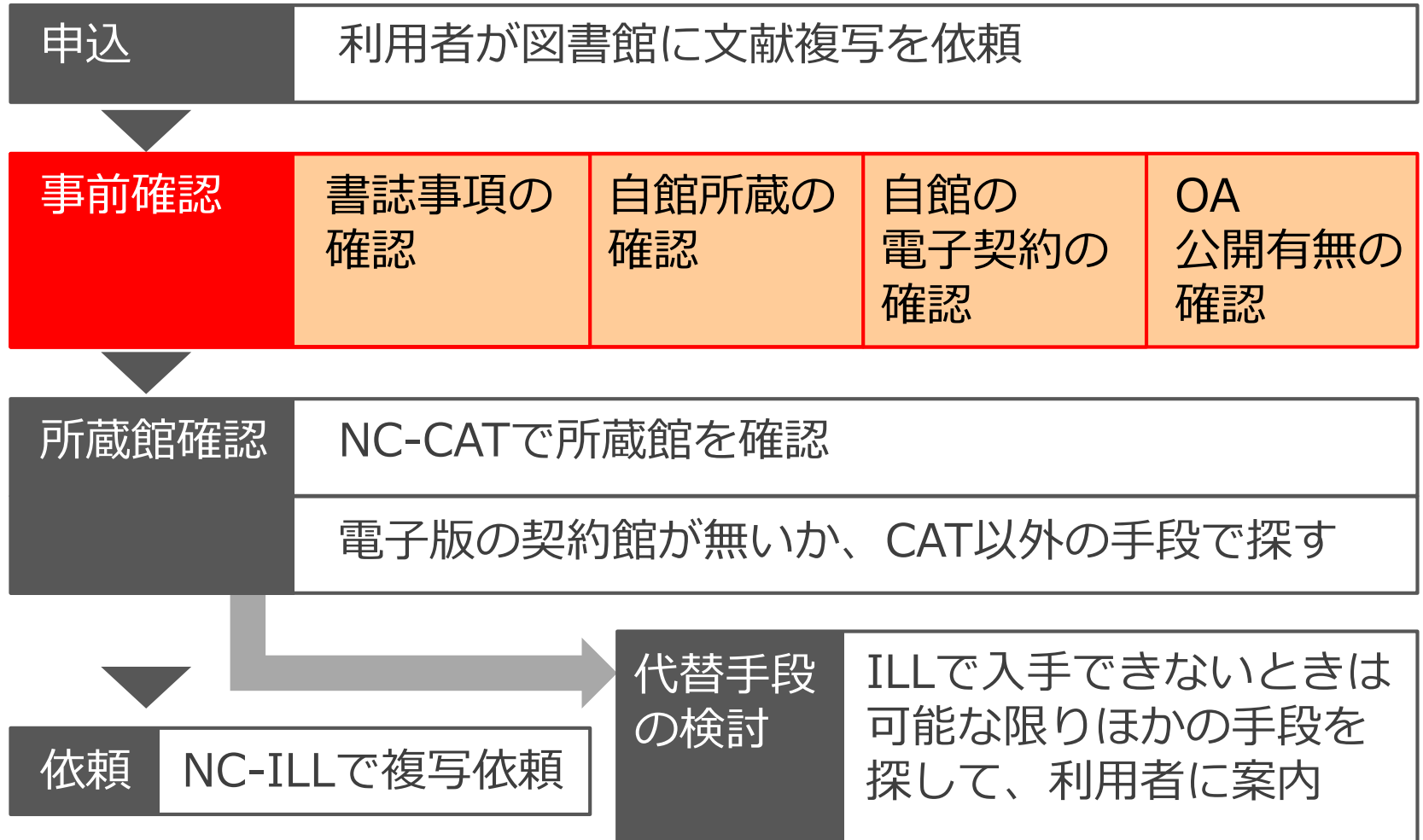
学術情報流通の変化により、チェックポイントの増加。

「入手不可であること」の確認の難しさ→労力の増加

知識量や経験値によって文献入手の幅が大きく変わってくる。



事前確認：複写依頼をする前に



事前確認：複写依頼をする前に

事前確認作業の実際（アンケートAより）

自館の電子資料の契約有無を確認 → 95%

OA公開有無の確認 → 100%（**ILL業務フローとして完全に定着**）

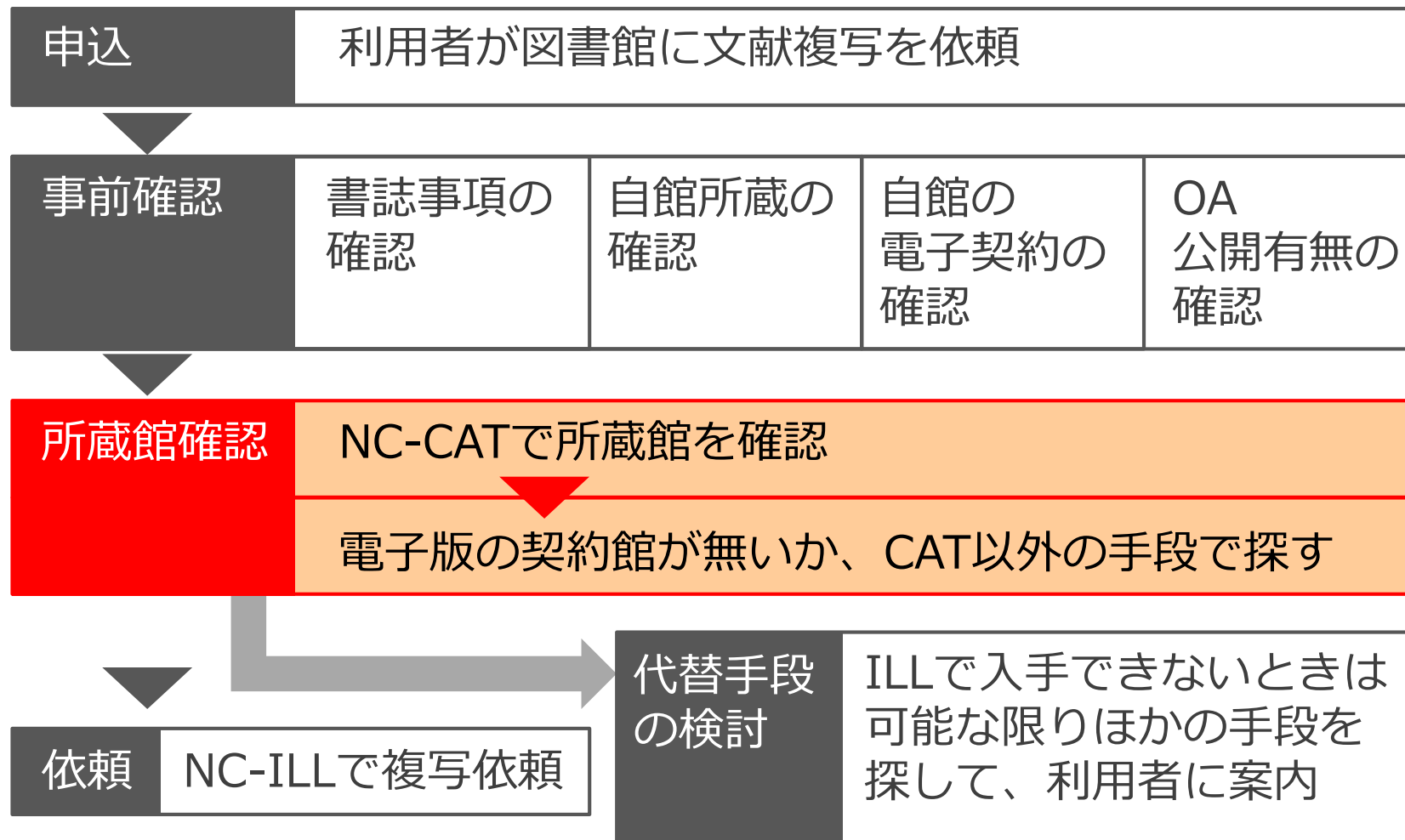
OA確認の難しさ

OAが「存在しないこと」を確認するのが困難

公開しているWebサイトや、ファイルのバージョンによっては、申込者に案内してもいいか迷うものも存在。

⇒3つ目の講義「オープンアクセス・論文共有の時代の文献提供」にて詳しくご紹介します。

所蔵館確認：CATで所蔵館が見つからない



所蔵館確認：CATで所蔵館が見つからない

CAT上で所蔵館がなかなか見つからない状況までの時系列
(主に洋雑誌)

EJを契約するも、NACSIS-CATに登録せず

自館で多くのタイトルが読める、他館の冊子購入状況はわかる

EJ契約タイトルについて、冊子体の購入中止

自館で多くのタイトルが読める、他館の状況はわからない

多くの大学で予算不足によるEJの契約中止が発生

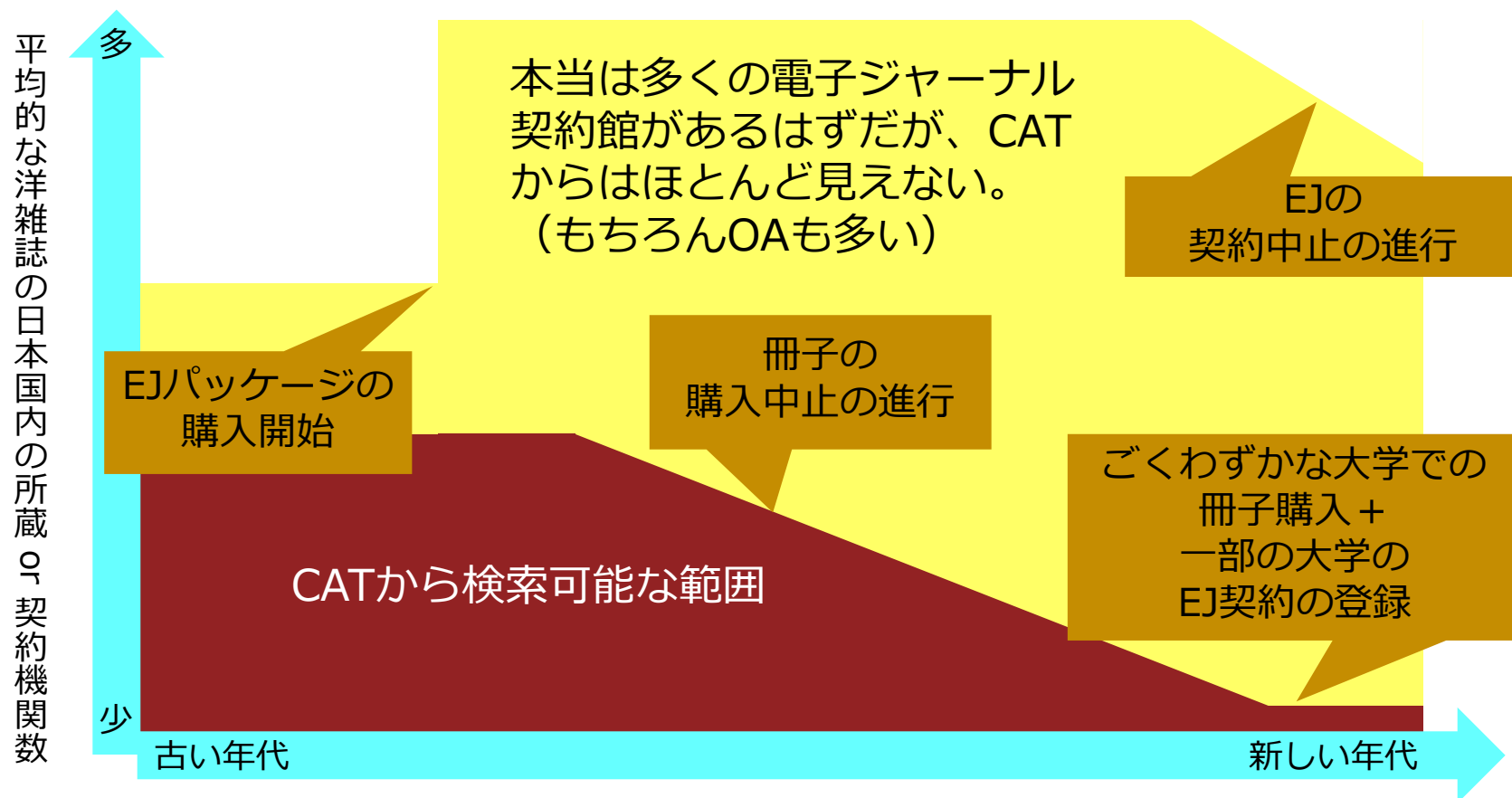
自館では読めない、他館の状況もわからない

今ココ

⇒NACSIS-CAT/ILLの互惠サービスとしての機能低下

所蔵館確認：CATで所蔵館が見つからない

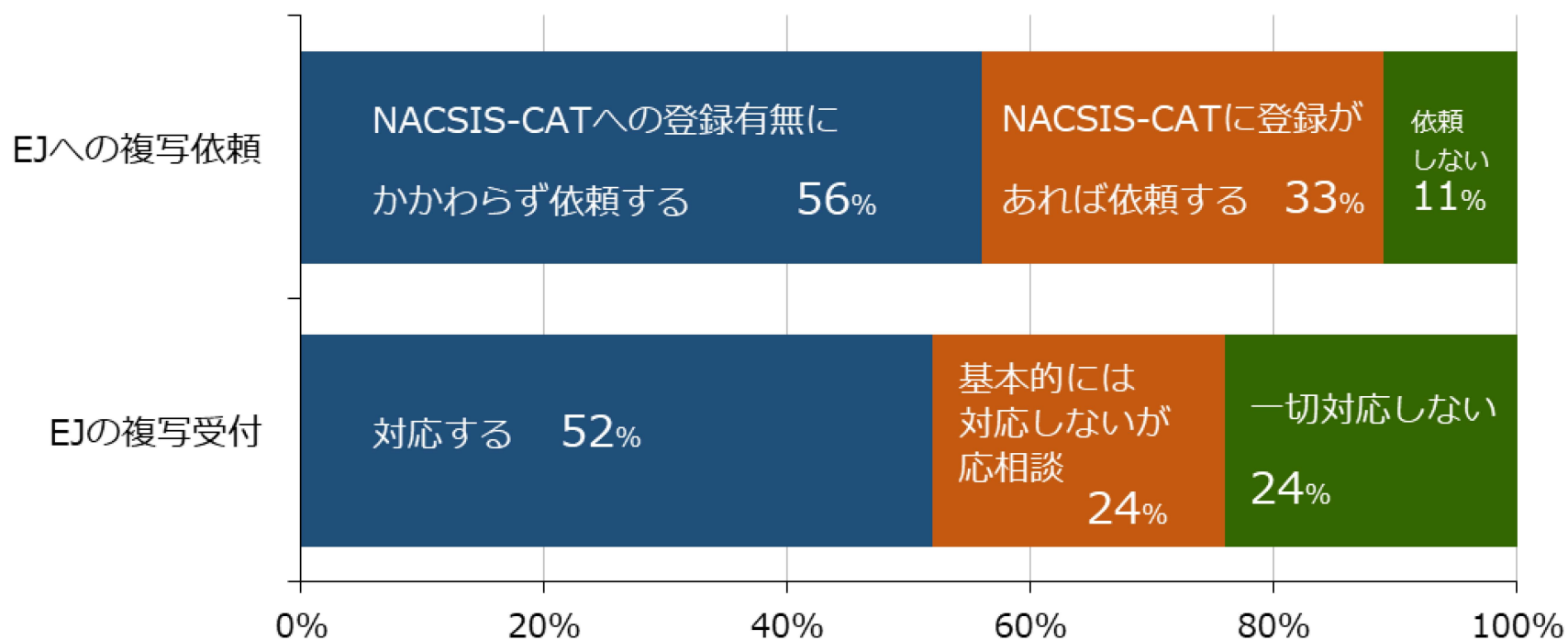
洋雑誌の新しい年代の部分が、明らかにNACSIS-CAT上から
不可視化されてしまっている。[以下は模式図]



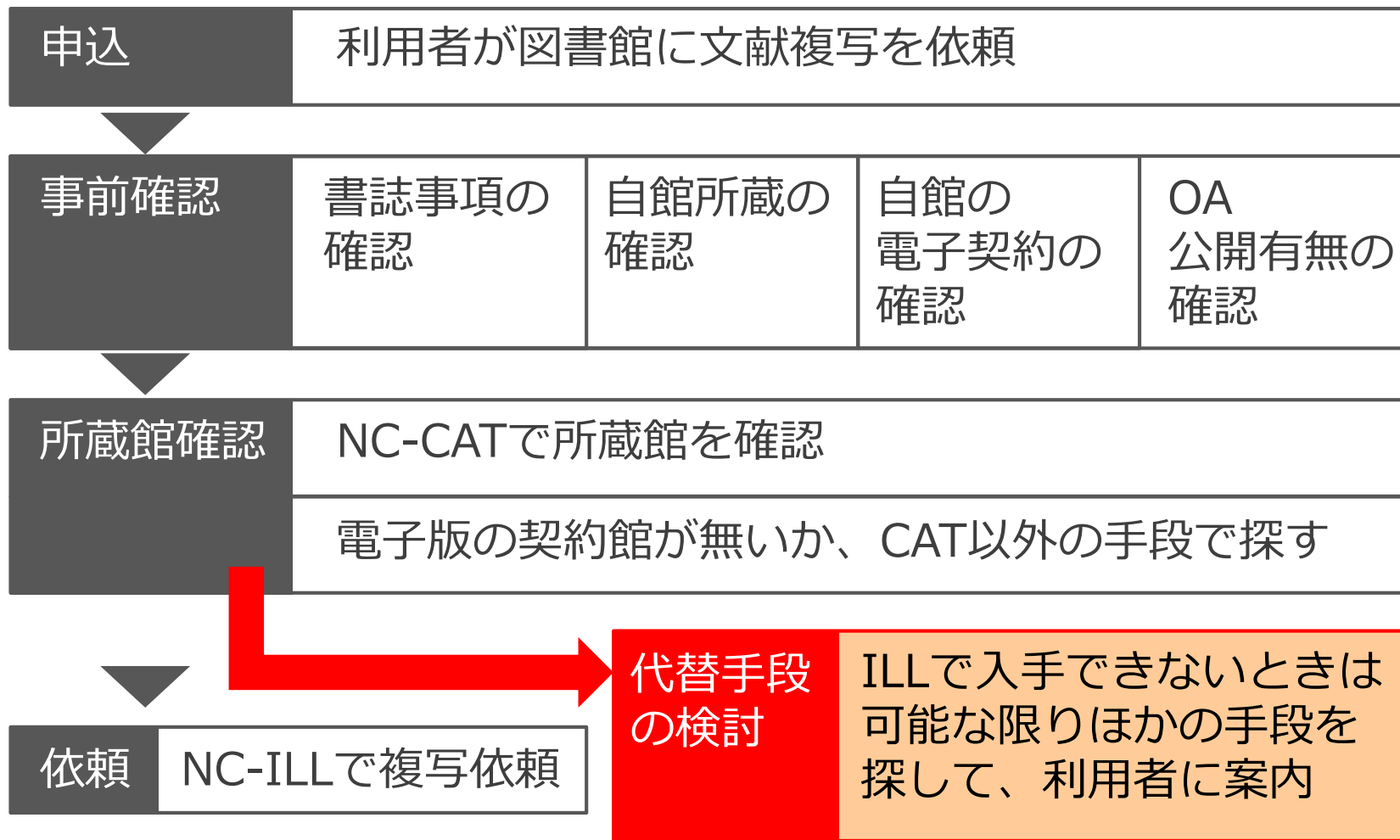
所蔵館確認：CATで所蔵館が見つからない

何らかの手段でEJ契約館を探して、NACSIS-ILLで依頼は可能
But. 契約上提供できなかつたり、各館の運用の差があつたり。

各館の運用差：EJへの複写依頼・受付の実態 [アンケートAより]

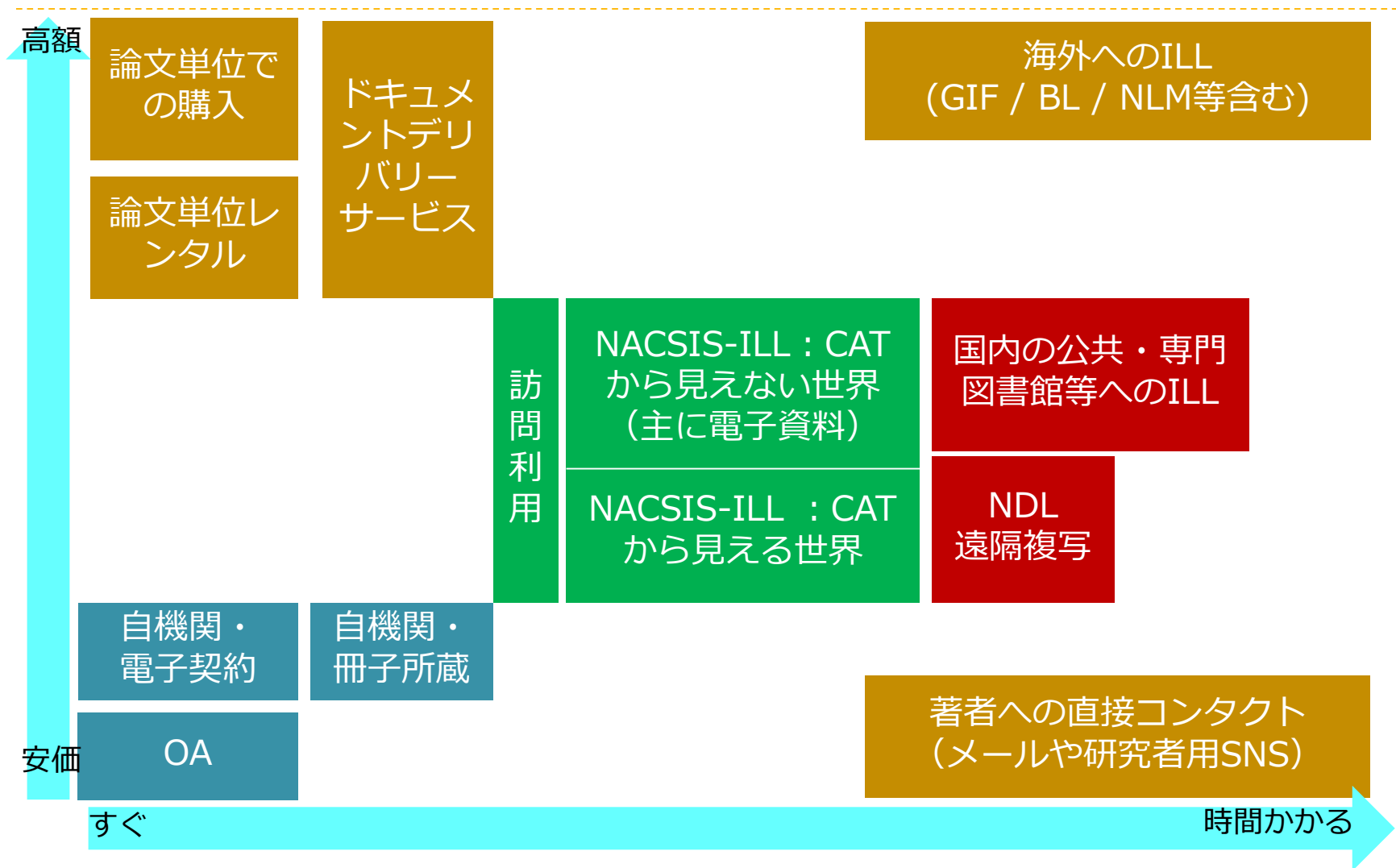


ILL入手できず：そのとき事後フォローは



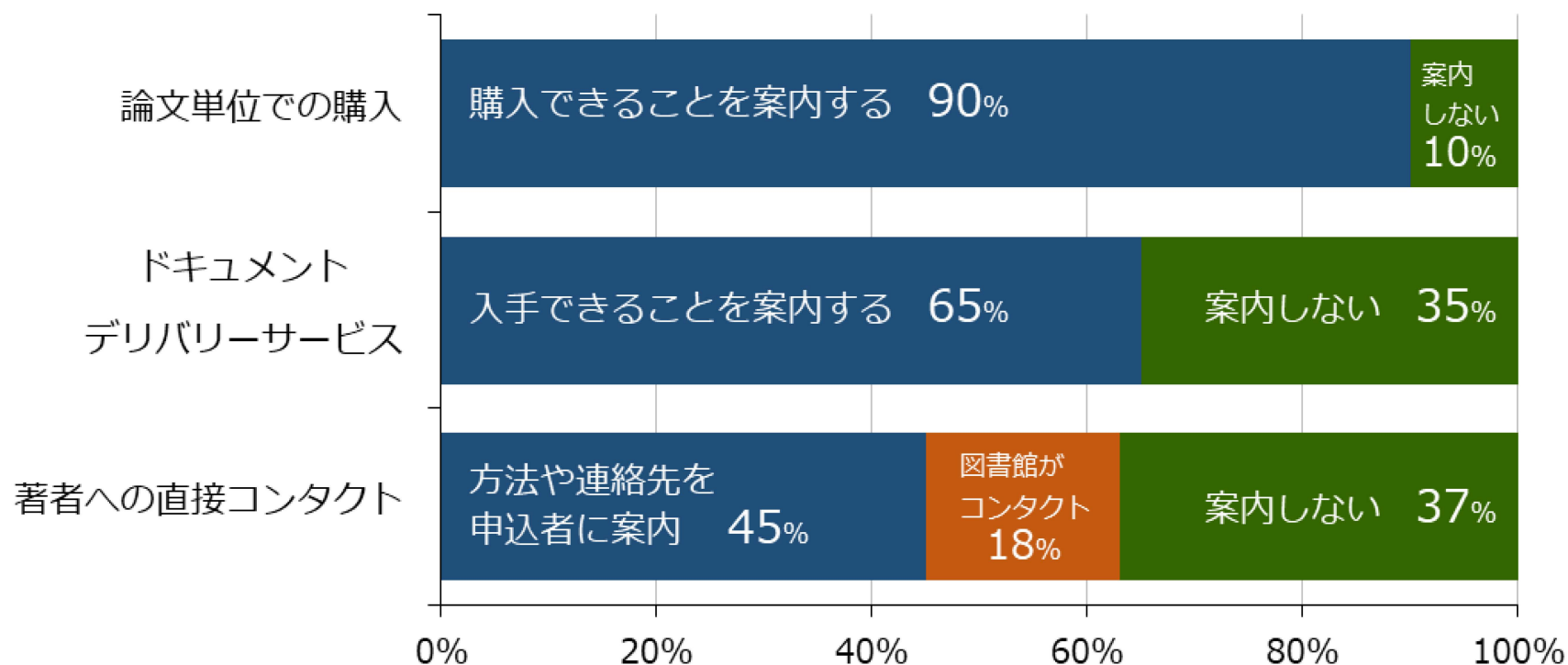
3)文献入手方法の1つとしてのILL

日本の大学図書館における文献入手の世界



ILL以外の文献入手の実態

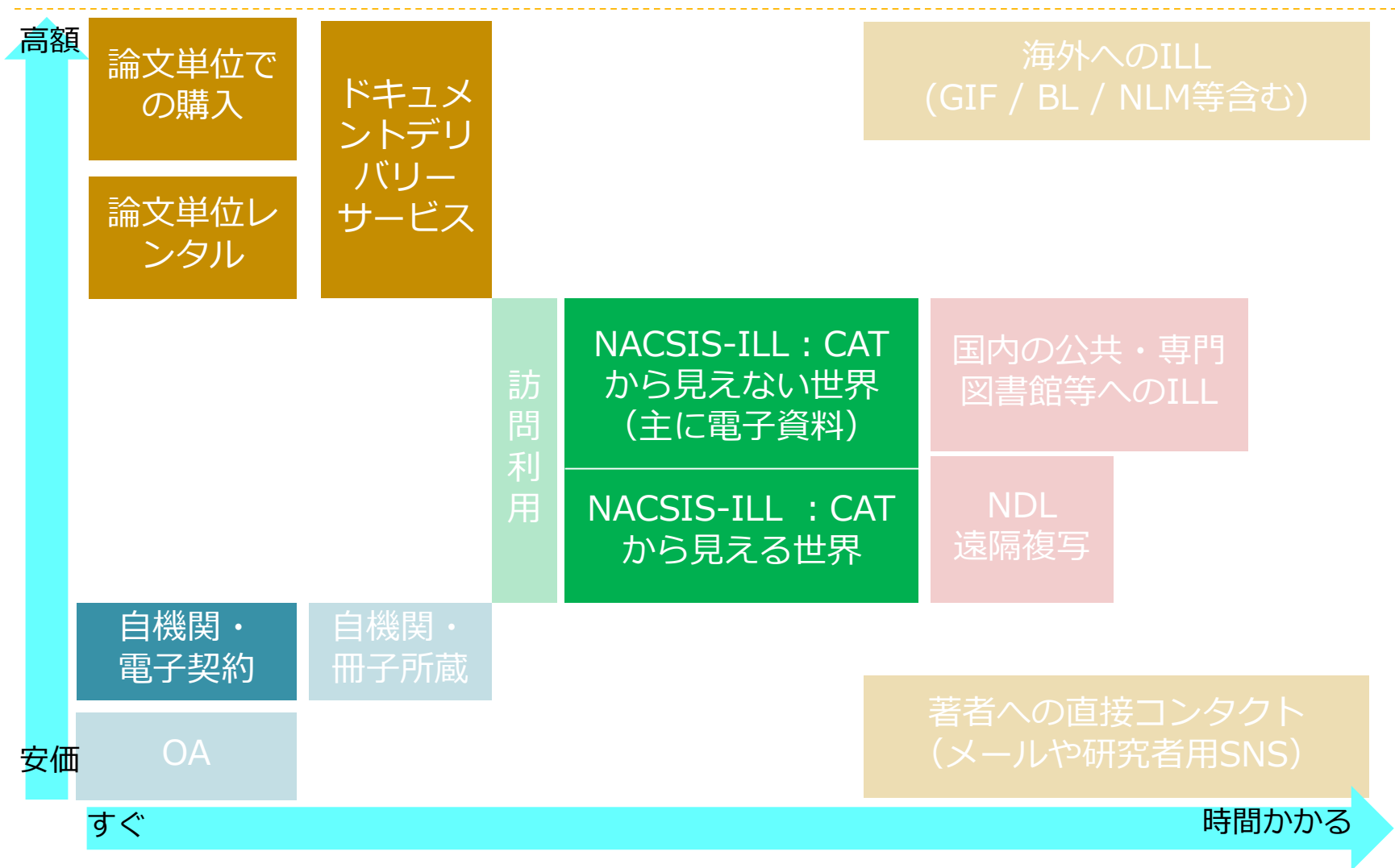
ILL以外の手段を申込者に案内するかどうか [アンケートAより]



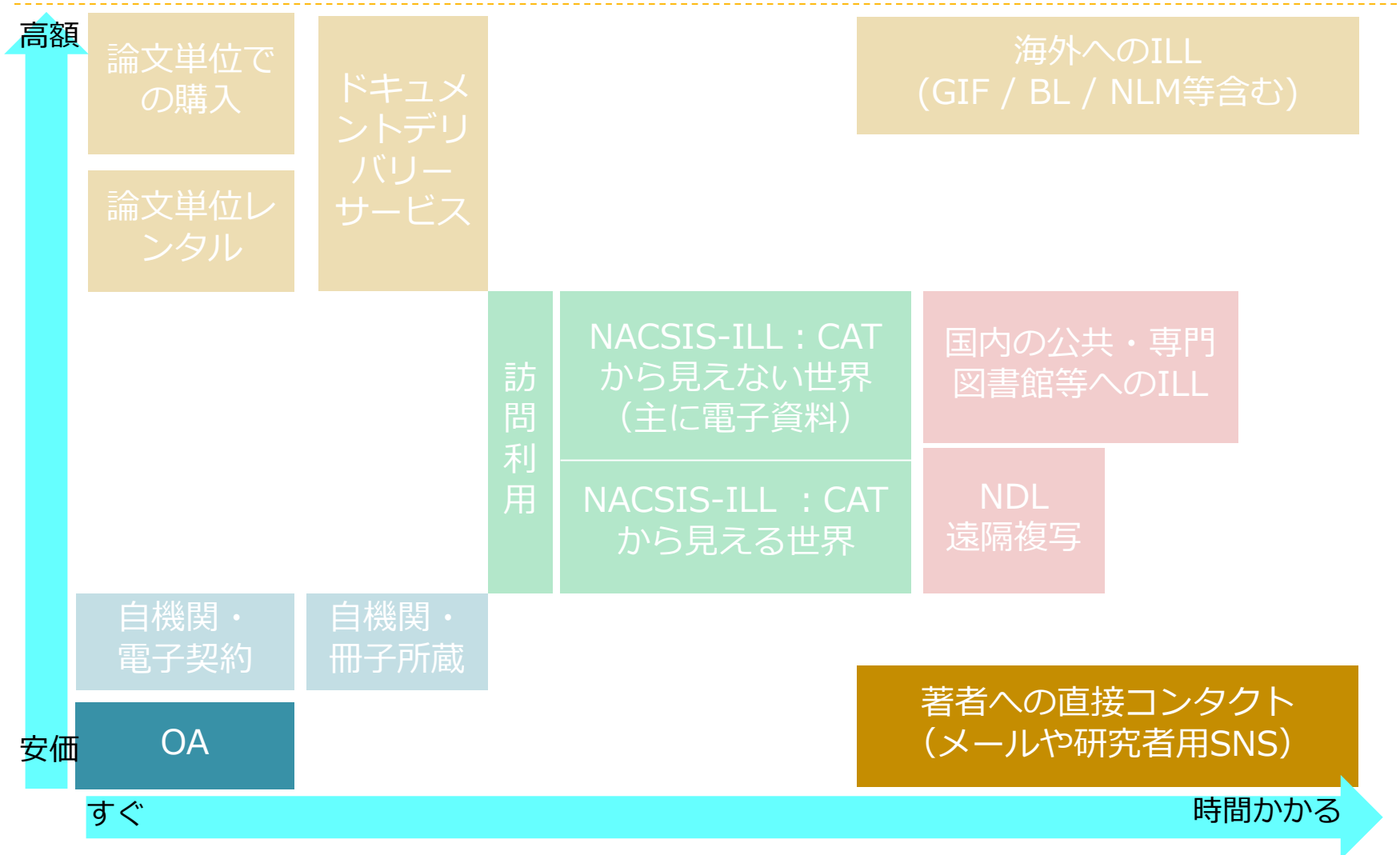
その他（自由記述から抜粋）

訪問利用 / 近隣の公共図書館の案内 / 古書購入 / 発行元へ図書館から問合せ など

講義「電子ジャーナルとILL」のフォーカス



講義「オープンアクセス・論文共有の時代の文献提供」のフォーカス



小括

学術情報の電子化そしてオープンアクセスの拡大によって、ILL業務にも大きな変化が起こっており、さまざまな文献入手ルートを視野に入れる必要がでてきた。

続く2つの講義では、このような状況に対応するために必要な、以下2点について詳しく紹介します。

- ・ **電子ジャーナル**について
- ・ **オープンアクセス**や論文の共有について

ご清聴ありがとうございました。



参考文献

Piwowar, Heather et al. The State of OA: A large-scale analysis of the prevalence and impact of Open Access articles. PeerJ, 2017, PeerJ Preprints 5:e3119v1. <https://peerj.com/preprints/3119/>, (accessed 2017-11-26).

石山 夕記. NACSIS-ILLの理念と実態:参加館における「謝絶」の状況とその理由の解明に向けて. Library and information science. 2010, no. 64, p. 81-107.

国立情報学研究所. “NACSIS-ILL終了レコード件数”. 国立情報学研究所目録所在情報サービス. 2017-11-01. <https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/ill/endrecord.html>, (参照 2017-11-26).